

マルティネルの街角で

YKI 国際特許事務所 弁理士◇葦原 エミ

Vol.26 恥ずかしがってちゃ踊れない！

フラメンコを始めてからもう4～5年になる（ちなみに「フラダンス」ではない。何度も「ハワイ、お好きなんですね」と間違えられたけど）。きっかけは、忘れもしない、とあるマレーシア代理人とのランチ。

「フラメンコ、やったことある？ 難しいの。『背筋を伸ばして！ 腕を上げて！ 視線はこっちに！』なんて先生にビシビシ注意されて」

「へ～、厳しそうだな」と思いつつ、彼女の語りっぷりがとても情熱的で魅力的だった。

ほどなくして、通っていたスポーツジムでのこと。「あれ？ あっちのスタジオでみんなが踊ってるのはフラメンコではないかい？」。

そ～と眺めていたら、インストラクターが「あっしはっらさーん、体験レッスン、できますよお～」と。「え、え、え、いやいやいや。。。」とその場では首を横に振りつつ、既に心は「やってみようかね」。

で、さっそく翌週、ユニクロのフリフリスカーートを履いて参加してみた。筆者はこう見えても（あ、筆者の姿は見えないか）小さいころから日本舞踊、バレエ、ジャズダンスなど、いろんな踊りを習ってきた経験がある。だから大抵の「踊り」はどうにかなる、とタカをくくっていた。が、そんな自信はどこへやら。

指を動かしながら、腕を動かしながら、足を動かしながら、自転する。。なんて、できるわけないじゃんっ！！

かくして、負けず嫌いの筆者は週1回のレッスンに通うことにした。まずはロング・スカートとレオタードと靴を購入。フラメンコの靴は単なる履物にあらず、「楽器」でもある。身につけると我ながら、なんだかっこいい。いざ、出陣！

で、2カ月ほどたったが、何やらおかしい。

「先生～、2カ月もたったのに、指を動かしながら腕を動かさせ～ん」と嘆いてみたら、先生は、あっさり「あ、そうそう、そうなのよ（ニコッ）。普通はできないから。でも、そのうちできるようになるから（ニコッ）」。

「いや、もっと違うアドバイスがあるでしょー！」と思ったが、結局、練習するしかない。最初に習うのはセビジャーナス（Sevillanas）。これさえ踊れるようにしておけば、スペインの祭りでは仲間入りできるらしい。が、

振り付けが覚えられず、モゾモゾ踊っていたら、先生からバシッとひと言。

「はいはいはい（手をパンパンしながら）、恥ずかしがってたらフラメンコは踊れませーんっ！」。このひと言は人生の教訓になったね。

「はいはいはい、恥ずかしがってたら葦原エミはできませーん！」（以後、座右の銘にしている）。

フラメンコは「私を見てっ！」的な100%自己陶醉の世界に入らなければ踊れない。加えて、中途半端な集中力だと怪我をする。論より証拠、ぼ～っと踊っていたら、右の踵で左足の甲を蹴ってしまい、流血（フラメンコシューズのつま先と踵には多数の釘が打ってあるのです）。

「来週、期限モノがあったよな。インスト、来てたっけ？ 今夜、何を食べようかな？」なんて余計

なことはもう一切考えず、頭の中を真っ白にして1時間半ひたすら踊る。「それだけでものすごくりフレッシュできるんだよね」。「おー、分かる、分かる！」と大賛同してくれたのは、なんとフラメンコ歴10年のドイツ(!)の男性代理人。いつかフラメンコ好きの代理人たちと踊れる日が来るかな（どこで?）。筆者の踊りはいまだ「フラメンコと思いき」レベルだけど、ちょっとだけ夢を見たりしている。

